

中国企業の海外進出

岡山県上海事務所 池田 稔

(日中経済貿易センター上海事務所 所長)

はじめに

これまで我々は中国への投資という面から中国を見てきました。1978年の改革開放政策の始まりから、中国は、積極的に外資を招き入れ、資本と共に導入した技術や管理システムを、豊富な資源や安くて豊富な労働力と組み合わせ、「世界の工場」となりました。

しかし、中国経済は、この二十数年で経済規模、貿易規模ともに飛躍的に成長し、現在では「世界の工場」から「世界の市場」へと大きく変わりつつあります。過去の安くて豊富な労働力を活用した産業も、今では賃金が大きく上がるとともに、東部沿海地域では労働力不足が顕著になってきました。そんな中で、外国企業は製造業の投資を中国から東南アジアなどへシフトするようになっていきます。同時にこれは中国企業にとっても同じで、新たな市場を開拓すると共に、コスト削減、労働力確保などの面で東南アジアなどへ進出する企業が増えてきました。

走出去

中国から海外への投資、海外での事業展開を中国では「走出去」と言います。「走出去」は、「対外直接投資」、「プロジェクト請負」、「労務合作」などに分類されます。

「対外直接投資」は、企業などによる事業投資、会社設立、「プロジェクト請負」は主に発展途上国などでのインフラ建設など、「労務合作」は現地への労働者の派遣です。

以下、中国政府発表の2011年の対外直接投資の統計数値を紹介します。

- ・2011年 対外直接投資額 746.5億ドル
(前年比8.5%増)
- ・2002年の統計公布以後10年連続で増加しており、内、非金融部門の投資は685.8億ドル。
- ・これまでに約13,500社の投資により、合わせて18,000社以上の企業が177の国と地域で設立された。業種的にはビジネスサービス、金融、鉱業採掘、卸売り、小売り、製造、交通運輸などの分野。
- ・新たな企業設立とともに多いのがM&A。昨年の対外直接投資額の36.4%、272億ドルがM&A。業種的には鉱業採掘、製造業、発電・送電など。
- ・地域的には東南アジアの59.05億ドルを含む発展途上国への投資が612.3億ドルと全体の82%を占める。

アジアの新興国で中国企業との取引も

最近、当事務所でお話をうかがう企業からもカンボジア、バングラデシュ、ミャンマーなどの国名が多く挙がるようになり、それらの国に進出している中国企業の話も話題になります。アパレル、縫製などでは中国企業もすでに進出し、彼らはこの30年余りの改革開放政策の中で日本企業や外国企業から得た設立、発展のモデルを現地で活かし経営を進めているとのこと。

軽工業などの労働集約産業では、これらの国

の取引相手が中国系企業となる可能性も高いの
ではないでしょうか。

(2012年9月)